



東京部会(第63回)

日時:	2013年12月17日(火) 19:00-21:20
場所:	日本大学経済学部本部館中2階会議室
参加者:	篠原(同志社大)、加藤(日大)、新井(小石川中等教育)、高橋(桜修館中等教育)、埴(都立多摩高)、杉田(千葉西高)、三枝(目黒区立東山中)、升野(筑波大学附属中学校)、大川(川口市里中)、榊原(東証)、石山(東証)、鈴木(日本経済教育センター)、宮尾(筑波大)[順不同]

【内容要旨】

1. 新井先生より、配布資料『12月・東京部会レポート』に基づき、最初に来年の夏休み経済教室の日程が示された上で、やり方や内容について議論があった。篠原先生より、(1)初任者ないし歴史・地理の教員のために「現代社会」の教え方などを示す入門コースを東京で1日かけて通常のコースと並行して行う案、また(2)歴史シリーズでさらに新しいテーマ(例えば日本の高度成長)を取り上げる案、さらに(3)地理シリーズを始める案、などが出され、今後とも検討していくことになった。
2. 次に、新井先生と篠原先生、また関係する先生方より、年次大会の準備の状況、また部会やWSについての報告があり、特にこれからのWSについて、12月21日の神奈川(金子先生中心、加藤先生講演)、1月14日の愛知県(新井先生出席)、また2月15日の埼玉川口(大川先生窓口)が議論された。
3. 実践事例に関する報告で、まず篠原先生より、「実践資料集」の編集について、これまでの教材や実践例をまとめるために、各人がこれまで発表した教材や実践例を整理して提出してほしいとの要請があった。次に、実践事例との関係で、色々な教材や参考資料が配布され、それぞれについて主に篠原先生より解説があった。例えば、山本雅康先生(奈良学園)が読売新聞の記事をもとにして作成した「中学での時事問題」や、コンビニから現代社会を考える教材など、中学としてはレベルの高いと思われるものが提示された。
4. さらに実践事例について、埴先生が11月の東京部会で報告された「スマートフォンが壊れたことについての責任と弁償」に関する法律的な教材について、篠原先生より、経済でリスクと保険を扱い、その一事例として取り上げることができるのではないかと提案があり、それに賛成する意見が出た。
また加藤先生より、経済学で取り上げる地理の教材として、『グローバル社会を生き抜くためにインドを知ろう』(日本経済教育センター)についての説明があり、その前半ではインドを知るため、また後半ではインドの自動車産業についての質問項目などが示され、この教材の使い方、改良の仕方などについて議論があった。
また高橋先生より、2007年に行われた中央大学経済学部の日本史の入試問題で、『詳説日本史B』(山川出版社)の誤った記述に基づいて出された問題の正解の一つが誤りという指摘があり、その理由が議論された。篠原先生より、広く使われている教科書で、特に経済学的に見て明らかに誤った記述があった場合にそれを正していく努力をすることが必要との発言があり、皆の賛同を得た。
5. 最後に実践報告が2件あり、1件目は三枝先生より、「3. 11」に関連して防災の問題を取り上げて、自治体の財政の議論につなげる実践。ポイントは、防災を万全なものにすればいいが、それだけ費用もかかり、財政が圧迫されるので、それを考えさせることで財政への理解を深めるというもの。これも先に出たリスクと保険との関連で議論するのも一案との意見が出た。
2件目は宮尾より、11月の東京部会でその概略とねらいが説明された「公共財タダ乗り・繰り返しゲーム」の実践報告があった。クラス(大学1~2年生)での実験の結果は、繰り返しの数が少ない場合は、全体的に非協力的で公共財の供給のための費用負担を免れようとする傾向が支配的であったが、繰り返しの数を多くした場合には、少なくとも最初は協力的で、公共財供給のために進んで費用を分担するという態度が見られた。この結果の解釈と教訓、また解釈や今後の改良点などについて、活発な議論が行われた。



次回開催予定:1月21日(火)19:00~21:00。場所は日本大学経済学部本館中2階会議室。議題は、年次大会の内容検討、実践報告、教材作成に向けたディスカッションなど。

今後の開催予定:2月18日(火)、場所は同上。